

特別講演 2

「肺がんにおける診断および治療の最新知見」

東京医科大学呼吸器・甲状腺外科学分野教授

大平 達夫 先生

肺がんは予後不良ながんの一つであり、本邦でのがん死亡数は男性第1位、女性第2位である（2023年厚生労働省公表）。肺がん治療成績の向上には、早期発見して早期に治療することが重要である。しかし、早期発見することは容易ではなく、また、早期に発見して手術を行っても再発することも多い。しかし近年、遺伝子異常に対する分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬などの有効な薬物療法が開発され、進行癌や再発した症例でも長期生存が期待できる場合も少なくない。最近では、周術期治療に分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬を用いて治療成績の向上が期待されている。また、科学技術の進歩に伴って、診断や治療に人工知能などの最新技術が応用され、手術にはロボットが臨床導入されている。診断および治療における最新知見を診断、手術、薬物療法の観点から当院での試みを含めてわかりやすく概説する。